

論文 / 著書情報  
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	Is there a Liability of Japaneseness in the developing and least developed economies: A comparative study between the Japanese and Chinese FDI and internationalization processes.
著者(和文)	ブ イェアミン
Author(English)	Amine Bouyoucef
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第9919号, 授与年月日:2015年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:鍾 淑玲,飯島 淳一,井上 光太郎,妹尾 大,鈴木 定省
Citation(English)	Degree:., Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第9919号, Conferred date:2015/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

(博士課程)

## 論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	Bouyoucef Amine Nadir	
論文審査 審査員		氏名	職名	氏名	職名
	主査	鍾 淑玲	准教授	鈴木 定省	准教授
	審査員	飯島 淳一	教授		
		井上 光太郎	教授		
妹尾 大		准教授			

### 論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「Is there a *Liability of Japaneseness* in the developing and least developed economies: A comparative study between the Japanese and Chinese FDI and internationalization processes (発展途上国と後発発展途上国において、日本固有の不利な要素が存在しているのか—日本および中国の海外直接投資 (FDI) ならびに国際化プロセスの比較研究を通じて)」と題し、中東ならびにアフリカを対象地域として、発展途上国と後発発展途上国における日本企業と中国企業の海外直接投資ならびに国際化プロセスの特徴を実証的に分析し、さらにケーススタディを行ったものであり、以下の6章から構成されている。

第1章「Introduction (序論)」では、本論文の研究背景と目的について述べている。まず、日本、韓国、中国などの多国籍企業の現状を比較説明し、新興市場における日本企業の課題を指摘している。また、本論文は発展途上国と後発発展途上国における日本企業の浸透を妨げる要因として、日本固有の不利な要素が存在している」と指摘し、それを解明することを本研究の主な研究目的としている。

第2章「Literature review (既存文献のレビュー)」では、多国籍企業の国際化プロセスに関する文献レビューを行い、先進国による国際化アプローチと新興国による国際化アプローチの違いを比較し、それぞれの特徴を整理している。

第3章「Is there a *Liability of Japaneseness* in developing and least developed economies? The Japanese FDI's determinants in the Middle East and Africa (発展途上国と後発発展途上国において日本固有の不利な要素が存在するのか? 中東ならびにアフリカにおける日本による海外直接投資の決定要因)」では経済的距離、経済的自由距離などが日本企業の海外直接投資に対する影響を実証的に分析している。具体的には経済的距離、経済的自由距離、文化的距離、学習変数の4つの主要変数、さらに地理的距離、人口、天然資源などをコントロールした上で、日本企業の海外直接投資に対する影響を評価し分析している。使用するパネルデータの対象期間は2003年から2012年の間であり、対象地域は中東ならびにアフリカにおける30カ国である。結果としては、経済的距離、経済的自由距離が日本企業の海外直接投資に負の影響を与えていることを示している。

第4章「Is there a Chinese *Market Acquaintance* with developing and least developed economies? The Chinese FDI's determinants in the Middle East and Africa (発展途上国と後発発展途上国において中国企業の市場知識による影響が存在するか? 中東ならびにアフリカにおける中国による海外直接投資の決定要因)」では、日本と同様の30カ国を対象に第3章と同じ手法による実証的な分析を行い、中東ならびにアフリカにおける中国の海外直接投資の特徴を明らかにしている。日本の場合とは異なり、4つの主要変数である経済的距離、経済的自由距離、文化的距離、学習変数のいずれも中東およびアフリカにおける中国の海外直接投資に大きな影響を与えるとはいえないことを明らかにした。また、より客観的な変数である天然資源と市場規模を示す人口は中国の海外直接投資に影響を与えていることを示している。

第5章「Case studies: The internationalization of Chinese and Japanese multinationals in the Middle East and Africa: Haier and Sony (中東ならびにアフリカにおける中国企業と日本企業の国際化のケーススタディ: ハイアールとソニーの事例を通じて)」では、日本のソニーと中国のハイアールの2大家電メーカーのケーススタディを行い、アフリカ・中東市場、特にアルジェリア市場における2社の市場戦略を比較研究している。ここでのケーススタディは実証研究で把握が困難な企業レベルの情報を取得し、前章まで実証結果と整合的な結果を企業レベルで得ている。

第6章「Discussions, contributions and general conclusion (結論、貢献、全体のまとめ)」では、本研究の内容をまとめるとともに、研究の限界および今後の研究課題について述べている。具体的にはまず、日本と中国のプールデータからの分析結果を示した上で、第3章と第4章で考察した発展途上国と後発発展途上国における日本と中国の海外直接投資の主な分析結果を比較し、それぞれの国際化プロセスの特徴を示している。さらに、第5章のケーススタディから得た知見を総括し、学術的な貢献と実務的な貢献を明示している。また、本研究の限界や今後の研究課題について述べている。

以上、これを要するに、本論文は国際ビジネスの観点から発展途上国と後発発展途上国における企業の海外直接投資の特徴を把握し、中東ならびにアフリカ市場への国際化プロセスに対する指針を示したものであり、学術上貢献することが大きい。よって本論文は、博士(学術)の学位論文として十分価値あるものと認める。

注意: 「論文審査の要旨及び審査員」は、東工大リサーチリポジトリ(T2R2)にてインターネット公表されますので、公表可能な範囲の内容で作成してください。